グリーンサークル３６号

クローズアップ　内城　葉子
活動団体紹介　連光寺・東谷戸の会
講座紹介　まちの大きな樹を巡る
多摩市みどりのかわら版　芦澤　和也

～クローズアップ～

「日本のスミレ探訪・72 種」を出版

どんぐり山を守る会　内城 葉子

コスミレ

ニョイスミレ

日本はスミレの種類がとても多く、自生は約 60 種、これに変種や品種、雑種などを合わせると 100 を軽く超えるとも言われています。

スミレに魅かれる理由を聞かれますが、自分でも明確な理由はありません。初めの頃は単に名前を知りたいと、関係する本を読み、観察し、写真を撮りスケッチをし、気が付けば入り込んでいました。身近なスミレから、だんだん遠くに足を延ばし、山や島にも行くようになり、できれば日本中のスミレを描きたいと。

でも現実は厳しく、やっと行っても咲いていなかったり、終わっていたり、なかなか思うようには描けません。それでも英国の「王立園芸協会」に「日本のスミレ」で８点出品し GOLD を受賞、その後も描き続けています。

そんな私以上にスミレを追いかけている方が日本植物友の会の副会長の山田隆彦さんで、私の数倍出かけスミレの写真を撮られていました。

一昨年、「内城さんの絵でスミレの本を作りませんか？」とお声がかかりました。専門書ではなく、誰にも分かるような本にしたいということで山田さんの文章に合わせて日本の代表種を選び、その数は 70 種を超えました。ただ、その全部は描けていませんでしたので山田さんから写真をお借りし、それから起こしたものも数点あります。当初、コストの関係で出版社からスミ版でと言われましたが、担当者が会議で頑張ってくれカラー版で出版することができました。

72 種を収録。そのうち多摩市には 12 種類。

春、早く咲き始めるのはアオイスミレ、寒さから身を守る為か毛の多い丸味のある葉で花は縮こまっているような感じです。細長い葉で紫色のスミレでしたらスミレかノジスミレ、少し湿った所でしたらアリアケスミレでしょう。同じように湿った環境で葉はハート型で茎をのばしている白いスミレはニョイスミレ。コスミレは名前は小でも花は大きめ。一番身近でよく見かけるのはタチツボスミレ。ハート型の葉で淡い紫色。それより濃くて中心が白いのがニオイタチツボスミレです。

なかなか違いがわからないかもしれませんが、先ずは葉の形がハート形か長い葉か、花の色は白？紫？ピンク？その辺の違いから少しずつ見えてくるでしょう。先ずはスミレかな？と足を止めてみるところから見てみましょう。

日本のスミレ探訪 72 選

日本植物友の会副会長
山田隆彦　著
内城葉子　植物画
太郎次郎社エディタス　発行

～活動団体紹介～

連光寺・東谷戸の会

西原　喜久江

多摩市の中では東に位置し、稲城市と境を分ける所に「連光寺・東谷戸の会」は 4 年前に東京都の湿地保全地域に誕生いたしました。

子供の頃といっても六十年位前には家の周りは畑や田で、夏には夕暮れともなると、蛙の声やどこからともなく、ゆらり、ゆらりと蛍が灯をかかげるそんな姿が見られるところでもありました。当時は農薬等も使われていたとみえ、それから暫くは見ることも出来なくなり、又、減反政策により、稲田であった所も工作放棄地となり、葦・ガマ等の雑草が繁茂する場所へと変わって居りました。

長崎の地でもそのようなところに美味なる水を撒いた所、蛍が飛ぶ様になったことを聞き、我が家の山桜のある所に家の水を三年位流した所、2005 年蛍が飛ぶ様になりました。当時は私一人が楽しんでいた訳です。

2007 年 8 月に市の公園緑地課の方にも見ていただき、その後、大栗川でゴミ拾いをしている方、水辺の楽校の方などの応援を得たり、多くの方の協力により、毎夏ホタル観賞会なども開催出来るようになり、多くの方の参加によりここまでやって参りました。その頃不動産会社によって湿地の開発の話が始まる中で、2012 年 7 月東京で、「世界貝類学会」が催され、東北大の千葉聡准教授と共に米国の研究者 3 名が当所を訪れ、調査がなされ消失する運命にあった絶滅危惧種であった陸産貝類が発見されたため、東京都はこれらを希少種として保全に向けて動き始め、2016 年に「連光寺・東谷戸の会」として活動を始めることになりました。これまでも、植物・生物・水中生物・昆虫等東谷戸特有の生態を見せる生物たちが生息し閉鎖地域という状況を保ちつつ、ここに生き続けてきた生物たちを今ある姿の中で生物環境を維持し、この環境の中で生物の多様性につなげる道なのだということを、多くの人に知っていただきたいということを、ここに申しあげたいと思います。

春はヤマザクラが美しい

自然環境は、一度破壊してしまったところは、初期の状態を取り戻すことは容易ではありません。それはそこに棲む、微生物・昆虫・植物・空気・水のすべてを破壊してしまうからです。これらは全てが連動し合って一つのつながりを保っていたからなのです。

地球 46 億年の全てを破壊してしまう、人間の奢れる心で切り開いてきた姿を今一度、見回してみてください。

地球に誕生する多くの命は粘土で作り出すようには出来ません。地球にある全ての植物、生物一つ一つの命は棲息する環境によって守られ生き続けているものなのです。

その守り役は地球そのものです。その守り手である管理者にならねばならないのが人としての役割ではないかと考えます。

自然を誇りに思っている皆様、地球の守り役として活動してまいりましょう。

秋。湿地一面に広がるミゾソバが満開

連光寺・東谷戸の会

「連光寺・若葉台里山保全地域」は、東京都に指定された 50 番目の保全地域です。休耕田だった谷戸を中心とした、湿地、畑、草地、雑木林などの環境が、多摩丘陵に様々ある生物相を残すとされています。

「連光寺東谷戸の会」は、この地域の主に湿地で、希少な動植物をはじめとした豊かな生態系を保全する活動を行なっています。

※保全地域の湿地は、通常、閉鎖されています。

会の名称：連光寺東谷戸の会（れんこうじひがしやとのかい）
活動日：不定期
活動内容:湿地・田んぼ・周辺の手入れ、水生生物・植物・昆虫等の調査、勉強会
お問い合わせ：多摩市立グリーンライブセンター　042-375-8716

～講座紹介～

まちの大きな樹を巡る

相田　幸一

きっかけ

連絡会事務局からこの講座の提案があったのは 2012 年の年明けのころだったと思う。

確か、多摩青年会議所が表題の企画を森木会へ打診してきたとのことだった。

大きな樹といっても、多摩市内には、いわゆる巨樹・巨木といわれるものはごく限られている。巨樹・巨木は胸高周長３ｍを超すもの、と位置付けられているからだ。

そこで、単に目に留まる大きな樹・広く知ってもらいたい大きな樹探しを、森木会各団体に協力願い、リストアップすることにした。東京都や多摩市の指定文化財を含めて、20 か所程度揃った。

その大きな木を巡って、また、大きな樹をポイントとして、街路樹・公園樹・緑地・そして庭園樹を観察しながらの多摩のまちを歩く。楽しみながら私たちのまちを知る、良いきっかけづくりとなると思った。

コース設定

一回の歩行行程を 10ｋｍ前後と考えると、少なくても 3 回のコース設定が必要と考えた。そこで、一通り多摩市ほぼ全域のまち歩きが出来るようにと以下の 3 コースを設定した。

西コース　落合・鶴牧コース（よこやまの道・唐木田を含む）

東コース　連光寺・よこやまの道コース（永山・諏訪・聖ヶ丘を含む）

北コース　和田・一の宮コース（東寺方・八王子の一部を含む）

それぞれのコースに大きな樹を充て込み、集合場所、解散場所をグリーンライブセンターと各鉄道駅に定めて、細かいコース取りを決めることにした。

2012 年 5 月から翌年の年度末まで 3 回すべてを実施すべく立案し、第一回西コースは、多摩青年会議所の主催事業として実施された。そして、その後はグリーンボランティア連絡会が主催するようになった。

実施状況と今後

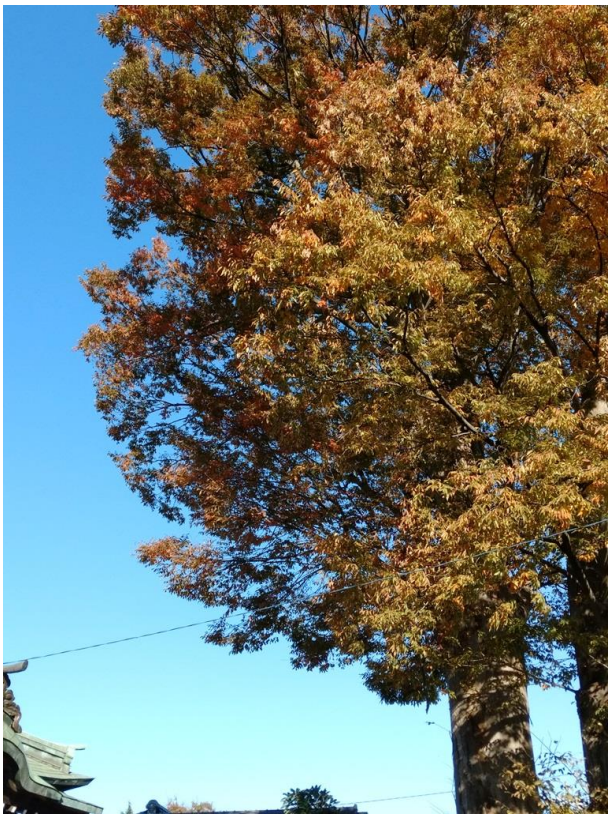
初年度は 3 回実施したがそれ以後は年度内 1，2 回程度実施し、2017、2018 年は、「多摩の雑木林を歩く」の企画と重なり、一定期間を休講とした。

各地点ごとに、そこで活動する方に同行してもらい複数講師で説明・解説に当たり、良い効果をもたらしていると参加者から好評を得ている。私にとっても視点を変えての解説は意義深いものがある。

また、自然相手のまち巡りは、巡るたびごとに新しい発見と、変化を感じることが出来る。参加者にもその辺りの見方、感じ方をお伝えできれば望外の喜びである。

そして、多摩の「みどり」について、市民が、団体・企業が、行政がどのように取り組むことが望ましいかを、考え、提案できる人材が少しづつでも増えることを期待している。

剣橋より若葉台方面を見る



春日神社のケヤキ（連光寺）

～多摩市みどりのかわら版～

多摩市とみどりの関わりについて考えること

多摩市　環境部　公園緑地課　みどり担当主査　芦澤　和也

昨年 4 月に公園緑地課に着任しました芦澤和也と申します。

グリーンボランティアの皆様におかれましては、日頃より多摩市の緑地保全活動等にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

少し自己紹介をしますが、学生時代は、身近な自然に生育する植物の生態について勉強していました。前の職場の道路交通課では、街路樹の維持管理に携わり、まちのみどりに対して、様々な市民意見や価値観があることを知りました。そして、公園緑地課に異動し、現在は、計画策定やグリーンライブセンターに関わる業務等を行っています。このように、みどりと縁が深い生活を送っています。

多摩市とみどりの関わり方については、みどりのルネッサンスで「愛でるみどりから関わるみどりへ」というコンセプトが掲げられているように、単にみどりを大切に思うだけでなく、未来を見据えてどのようにみどりと付き合い、次世代に引き継いでいくかが重要だと考えています。

関わりという点で、グリーンボランティアの方々は、重要な役割を果たしてくださっています。市内にある緑地や公園の管理に、積極的に関わってくださる人材がこれだけ多数いることは、多摩市が誇れる強みです。既に、その活動は、緑地を心地よいものにするだけでなく、学校教育などのさまざまな場面にも展開しており、みどりが有する付加価値を高めてくれています。

今後、地域をいっそう盛り上げていくことに対し、グリーンボランティア活動がどのように関わっていけるのか、また、地域のニーズはどういったものなのかを、皆さんと一緒に考えていけたらと思っています。

ボランティアの方々をはじめ、グリーンライブセンターに関わる皆様と一緒に、みどりの管理・保全に取り組めることは、大変心強く、幸せなことだと感じています。多摩市のみどりはいいね、自分もかかわってみたいな、という方を一人でも増やせるよう、精一杯、業務に取り組んで参りますので、皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

グリーンライブセンターのハロウィーンイベント

表紙の絵

「コスミレ」「ニョイスミレ」

絵・内城葉子

＜**プロフィール**＞　1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

＜**所属**＞日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

＜**著書**＞「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

編集後記

今年の冬は暖冬傾向とはいうものの、今日は１月というのに 20 度近くまで気温が上がっています。これを過ごしやすい冬と取るか、地球の悲鳴（?）と取るかは人それぞれだと思いますが・・・

朝起きるのは例年より楽ですが、冬しか見ることの出来ないものが見られないというのは、少々さびしい気がします。

多摩市グリーンボランティア通信
グリーンサークル 36 号
発行日：2020 年 1 月 31 日
編集・発行責任：
多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局
〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園
多摩市立グリーンライブセンター内
電話 042-375-8716　FAX 042-375-0087
ホームページ　http://www.keisen.ac.jp/tglc/